

児童室だより No. 69(2009. 10発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだものがたり・ちしきの本

本の情報	内容
<p>「エンザロ村のかまど」</p> <p>さくまゆみこ文 沢田としき絵 福音館書店 2009.6 【小中～】</p>	<p>エンザロ村はケニアの首都ナイロビの北西にある谷間の村。ガスも水道もないのに手早く料理ができるのは、日本のかまどをヒントに作られたエンザロ・ジコのおかげだ。わかした水が簡単に飲めるようになったので、赤ちゃんの死亡率も減った。エンザロ村にかまどを紹介したのは日本人女性。日本から遠くはなれたエンザロ村で、昔の日本人の知恵が役立っている。</p> <p>(J333-サケ-9694589)</p>
<p>「ベラスノアとキックオフ！」</p> <p>片平直樹作 平澤朋子画 福音館書店 2009.7 【小中～】</p>	<p>ぼくは5年生。サッカーチームのキャプテンで、チームの王様。将来は地元のサッカーチーム「ロケッティー」に入るつもり。最近おかあさんが家じゅうのカーテンを新しくしたり、カーペットを念入りにそうじしたりしている。どうやらぼくの父、ベラスノアが帰ってくるらしい。10年以上ぼっておいて、いまさら帰ってきて家族づらすなんて不愉快だ。ベラスノアはロケッティーの英雄だったが、八百長を疑われて追放されたんだ！しかも、姿かたちはワニそのもの！</p> <p>(J913-カタ-9706634)</p>
<p>「マリモを守る。」 若菜勇さんの研究</p> <p>千葉望文 荒谷良一写真 理論社 2009.7 【小中～】</p>	<p>北海道東部にある阿寒湖。日本ではこの湖だけに丸いマリモがすんでいる。しかし、その姿が見られるのは、今ではチュウライ湾とキネタンペ湾の2箇所だけ。国はマリモを特別天然記念物に指定して、保護ののりだしたが、マリモの生態は謎だらけ。北海道大学の藻類研究者から阿寒湖畔エコミュージアムセンターのマリモ専門学芸員となった若菜勇さんの研究活動をとおして、マリモの謎に迫る。</p> <p>(J474-チハ-9720366)</p>
<p>「パラレルワールド」</p> <p>小森香折作 森友典子絵 文研出版 2009.7 【小高～】</p>	<p>小学6年生の里菜の家に、いじめられっ子の草太がやってきた。しかし、いつもの草太とはどこかが違う。それもそれはず。彼は草太ではなく、別世界パラレルワールドからやってきた草太のパラレルツイン、斗真だったのだ。斗真といっしょにさまざまなパラレルワールドをさまよううちに、斗真の世界が別の世界の支配者によって滅ぼされ、侵略されようとしていることを知った里菜は・・・。</p> <p>(J913-コモ-9725308)</p>
<p>「いのちをいただく」</p> <p>内田美智子文 諸江和美絵 西日本新聞社 2009.5 【小中～】</p>	<p>食肉加工センターに勤める坂本さん。毎日牛を殺して肉にする。坂本さんはこの仕事がずっといやだった。殺される牛と目が合うたびに、仕事がいやになる。でも、牛を殺す人がいなければ、だれも肉を食べることはできない。小学3年生の息子の授業参観日。「お父さん、お母さんの仕事を知っていますか」と尋ねる先生に、「肉屋です。普通の肉屋です」と息子が答えるのをきいた坂本さんは・・・。</p> <p>(J648-ウチ-9672750)</p>
<p>「オックスフォード物語」 マリアの夏の日</p> <p>ジリアン・エイブリー作 神宮輝夫訳 偕成社 2009.6 【小高～】</p>	<p>両親を早くに亡くし、大おばさんの屋敷で暮らしていたマリア。寄宿学校に入ったが、学校になじめずに逃げ出した。でも、大おばさんの屋敷へ帰る電車は出たあと。しかたなく、オックスフォード大学で学寮長をしている大おじさんを訪ねるが、そこで知らされたのは大おばさんの死だった。大おじさんに引き取られたマリア。おとなりのスミス三兄弟とおかしな家庭教師にふりまわされながらも、古い屋敷に残された少年の絵の謎をとこうと決意する。</p> <p>(J933-エイ-9694622)</p>

<p>「マグロをそだてる」 世界ではじめてクロマグロの 完全養殖に成功！</p> <p>江川多喜雄文 熊井英水監修 アリス館 2009.7 【小中～】</p>	<p>マグロの仲間ではいちばん大きく、いちばんおいしいといわれるクロマグロ。近畿大学水産研究所では32年かけて、クロマグロの完全養殖に成功した。完全養殖とは、育てた魚が卵を産み、ふ化した稚魚が成長して卵を産むまでを人の手で管理することだ。クロマグロは広い海を一生泳ぎ続けるうえ、生態もほとんどわかっていないので、養殖は不可能だといわれていた。完全養殖が成功するまでの道のりを写真やイラストを使って紹介している。</p> <p>(J666-エカ-9725219)</p>
<p>「ジェミーと走る夏」</p> <p>エイドリアン・フォゲリン作 千葉茂樹訳 ポプラ社 2009.7 【小高～】</p>	<p>キャスの家の隣に黒人家族が引っ越してくるようになった。黒人嫌いの父さんは、隣との境に高いフェンスを建てた。隣はどんな人たちなのか。節穴から隣を覗き見していたキャスは隣の同い年の黒人少女ジェミーに見つかってしまう。出会いは最悪。しかし、お互い走るのが大好きだとわかり、だんだん仲良くなっていった。もちろん、お互いの家族には内緒。ところが、2人が仲良くしているところをキャスの父親に見つかってしまい……。</p> <p>(J933-7オ-9720508)</p>